

熊大に研究費を

危険海域には監視船

会委
議刊
県特

水俣病で要望

県議会水俣病対策特別委員会は二十一日午後二時半から自民党控室でひらき、県当局に〇熊大の研究陣（医学、理学両部）に県費で研究費を出すこと②危険海域を設定し、監視船を置いて操業しないよう注意することなどの施策を講ずべきだと要望した。

熊大への研究費は三十二年に三千一とする漁民に立入らないよう勧告万内、三十三年に八十二万内、三十三年に五千万内それぞれ予算化されていたが、本年度当初予算には全く計上されておらず、またさきの委員会で熊大側が研究費の不足を訴えたことから「県も原因究明に熱意のあることを示せ」として、各委員が九月定例県議会での予算化を要望したもの。熊大側はこの日の委員会に、研究費六百六十九万円が本年度不足する旨の報告書を提出した。

これに対し水上前知事が「熊大には厚生省から本年度百万円が支出されている。県としてもできるだけのことはいが……」と消極的な返事をしたため、再び各委員から県費予算化の強い要望があった。

また長野副委員長（社）から、政府が特別立法で漁業禁止区域を設けるまでの処置として「県が監視船を派遣、危険海域で操業しな

た。県当局も「十分研究する」と答えた。

席上田中委員長（自）から「水俣病ノイローゼで、地元民は無毒の魚まで敬遠する傾向がある。この行きすぎを是正する啓もう策はないか」と質したが、伊藤水俣保健所長は「危険海域は赤路島の外側まで広がっている。ある患者（死亡）は土場廃

水で溺った魚をとり、水俣市内のある魚屋（いま廃業中）に売っていたとき。私も生魚は食わずカシを食っている」と答えた。

またさきに水俣漁協からの要望で現地を視察した井福県水産課長補佐は「新日窒水俣工場の排液が出る袋湾では、ひどいところで二層のドバが海底に沈み、人の力では地引き網が引揚げられぬほどだ。また排水口のある水俣川河口付近は海底の石が黄変している」と状況をのべた。